

(プレ大会)

ユニバーサルウォークフェスタ in

びわ湖

実施日

2016年(平成28年)5月14日(土)

(中日新聞 5月15日朝刊記事)

五輪の記憶 歩きながら

大津 元聖火ランナーと子どもたち



4キを歩いてゴール地点に向かう一行。大津市本丸町の膳所城跡公園で

二〇二〇年の東京五輪・パラリンピックに向けて機運を盛り上げようと、一九六四(昭和三十九)年の東京五輪の元聖火ランナーと、地元の障害者や子どもたちが交流するウォーキングイベントが十四日、大津市で開かれた。

県内の元ランナー十二人を中心に、百四十人が参加。同市浜大津の大津港から本丸町の膳所城跡公園までの四キロの湖岸を、十人ほど

の組に分かれてスポーツや五輪について語りながら歩いた。

出発地点では、六四年に県庁前を聖火が出発した様子を写した写真パネルを展示。元ランナーは、トーチを持参したり、当時のユニホーム姿で歩いたりして、前回の熱狂の記憶を伝えた。膳所小六年の小野亮輔君(七)は「昔の盛り上がりの話を聞けて、五輪が少し身近に感じられた」と話した。(野瀬井寛)